

## 部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 関 一誠



第58回早慶バドミントン定期戦おめでとうございます。

今年の夏は異常なくらいの猛暑でした。両校とも夏季の合宿等ではコンディショニングづくりに大変苦勞されたと思います。それでも、早慶戦に向けて充実した練習をこなし本日に備えたことと存じます。

バドミントンの競技特性として極力風を嫌う訳ですが、酷暑の中で締め切った競技場内はそれだけで過酷な状況に追い込まれることとなります。先日、北海道で行われた東日本選手権を観戦しました。20面も取れる大きく立派な体育館で行われていました。北海道の地であることから、冷房とは無縁のイメージでしたが、競技場は空調が利いており場内環境は申し分ないものでした。しかし、館内の風による影響で選手はシャトルコントロールがとても難しかったようです。これからはこのような環境整備の整った競技場で試合をすることが多くなるとは思います。どのように対処するかが選手の課題のようです。

本年は日吉記念館で早慶戦を行えることから、ほとんどの選手が慣れ親しんだ競技場で試合が出来ることとなります。それでも日吉記念館、記念会堂それぞれに建物に特徴があり、特に一年生選手にとっては戸惑いを覚えるようです。コートの大きさは世界共通なのにコートにたつと、別世界で試合をしているように思えることもこの競技の面白いところだと思います。

どちらにしても、年に一度の早慶戦、両校の精一杯のがんばりを期待しています。

## 会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 橋本太郎



伝統ある早慶バドミントン定期戦が58回を迎え、本日日吉記念館において開催の運びとなりました。ひとえに慶応義塾大学のOB・現役の皆様のご努力の賜物と心より感謝申し上げます。

おかげさまで、現在我が早稲田大学男子は19連勝中、女子は9連勝中であります。戦力的には、早稲田が多少優っているのではないかと自負しておりますが、勝負でありますからどうなるかわかりません。両行の選手諸君が母校の名誉をかけて、全力を出し切る試合をされることこそが、早慶戦らしい戦いと言えるのではないのでしょうか。そんな熱戦をぜひ見せていただきたいものです。そして4年生の皆さんにとっては、試合に出られる方にとっても、応援される方にとっても、一生の思い出となるような早慶戦となることを願ってやみません。

試合後の美味しいビールと両校の交流を楽しみに応援させていただきます。

## Greeting from KEIO

### 部長挨拶

慶應義塾体育会バドミントン部部长 田村俊作



渋谷誉一郎教授の後を継ぎ、本年4月より部長に就任いたしました田村俊作です。よろしくお願いたします。58回を数える伝統ある定期戦が本年も開催される運びとなりましたことを心よりお慶び申し上げます。

わが慶應バドミントン部は本年も11名の新入部員を加え、総勢40名に迫る大所帯を維持しています。この大人数を部の勢いにすべく、部員諸君は日々各自のレベルに応じた練習に取り組んできました。ことに、今年はことのほか暑い夏でしたが、エアコンを切った蒸し風呂のような体育館の中で、OBの皆様も参加する中、部員諸君は汗を流しながら熱心に練習を続けてきました。

建て替えが予定されていた日吉記念館は、150年記念事業の見直しにより当分の間使い続けることになり、床の改修等により使いやすくなりました。さらに2009年11月には蝮谷体育館が竣工し、部員諸君の練習環境は以前に比べ良くなっていると思われま。

定期戦では近年、早稲田とは力に差があるように聞いておりますが、部員諸君には臆することなく日頃の練習の成果を発揮して、存分に戦ってもらいたいと思います。さらにまた、何と言っても早慶の仲、両校共に対戦を通じ、定期戦が勝敗を超えて、相手を知り、友情を育む良い機会となってくれるならば、これほどの喜びはありません。

最後になりましたが、監督、コーチの皆様をはじめ、両校部員をご指導、ご支援くださっているOBの皆様にも、深く感謝申し上げます。

### 会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長 小杉良雄



秋の早慶定期戦、再び日吉に早稲田さんをお招きしての第58回がやって来ました。

私が4年生で第8回の早慶戦出場(S35=1960)以来、実に50年が経とうとしています。またOB会長を引き受けてからは8回目の早慶戦です。

自分自身驚き半分ですが加齢と共に時間の経つのは年々早く、正に年齢×時速1KMで時は過ぎていく感があります。因みに私は今時速70数キロの高速、青春真っ只中の現役諸君は20キロ前後で時は過ぎて行くと言えるでしょう。そうした中、伝統の早慶バドミントンが一回、また一回と永遠に回を重ねていきます。

顧みますとこの50年間で塾が勝利したのは男子7回、女子11回のみでした。

でも決して諦めること無く「今に見ている僕だって」の気持ちを持ち続け、好敵手早稲田と戦えることに幸せを感じつつも一矢報いるべく頑張ってきましたし、これからも一層頑張って何時か輝ける勝利に結びつけてくれるものと信じています。

さて若さ溢れる両校選手諸君、それはそれとして今日は”one for all, all for one”の下自分のため母校早慶のため、ひた向きな感動的なゲームを多く見せて下さい。それが早慶戦です。

また直近の慶応男子は正直ちょっと不甲斐無く先ずはもって3部リーグ復帰を果たしてもらいたいし、又早稲田さんは一部優勝or準優勝をして欲しいと願っています。そのためには本早慶戦が何らかの活性化になれば嬉しい限りです。

さて今回諸事情があり新設とまではいきませんでした。補修完成した日吉記念館でのゲームや応援とそれに続く日吉ファカルティラウンジでの懇親には私も喜び勇んで参加するつもりです。

終わりに今後の早慶両校のバドミントン部の発展を強く祈念すると共に、本日が皆さんにとっても思い出に残る一日となることを祈っています。

今年も早慶両校の現役、OBが一同に会して競い合う早慶戦がやってきました。この伝統ある定期戦も今年で第58回を迎えることになりました。これもひとえに諸先輩方の努力と熱意の賜物と感謝申し上げます。

また、今年も監督として戦えることに感謝するとともに大変光栄であり嬉しく思います。

今年に入り、男子が関東学生春季リーグ戦において、優勝を目標におきながらも結果は5位と不本意な成績に終わりました。しかし、その後、上田がロシアオープンに優勝するなど、明るい材料もあり、秋のインカレに向けて、チーム一丸となって練習に励んでいるところです。

女子においても春季は入替戦という思いもよらない結果となりましたがここを乗り越えることにより、東日本学生では準決勝に進出し、希望を持って今後の試合に臨める状態になってきております。このような状況のなか、男女とも、今後、より良い結果を残せるよう努力していきたいとお思います。期待してください。

さて、今年の定期戦ですが、全員で一丸となり慶応に臨み、是非勝利をものにしたいと思えます。しかし、いつも独特の雰囲気の中で行われる早慶戦は過去いくつもの名勝負が実力を超越したところで勝敗がついて来ました。選手諸君には今年も気合い負けせず、日頃の練習の成果を充分に発揮し早稲田らしく悔いのないプレイを見せてほしいと思えます。特に4年生には学生最後の定期戦として、後輩達の見本となるよう全力をつくして必ず勝利してもらいたい。そして、良き思い出をつくってください。

最後に、今年も慶応の現役、OB諸氏と共により良い試合を展開し、より両校の友好が深まることを望みます。

## WASEDA KEIO

チームの未知なる可能性に向かって  
**Yes, we can change!**



ESPA 営業支援システムのエキスパート  
 株式会社エスバ



〒130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国ビル2F  
 TEL 03-5624-7231 FAX 03-5624-7232 URL <http://www.e-space.ne.jp/espa>

代表取締役 細村悦子  
 (S60年度卒)

今年6月、サッカーW杯南アフリカ大会での日本代表の快進撃に酔いしれた。「本田、世界揺らしたFK!」、「守護神GK川島、好セーブ連発!」、「日本、決勝トーナメント進出!」毎日のように新聞を賑わす彼らの活躍に胸躍らせた方も多かったであろう。日本時間では真夜中の放映となったにも関わらず、16強進出を決めるデンマーク戦では視聴率が46%にも達したというのだからその注目度の高さには驚かされる。W杯直前の国際強化試合で負け続け、惨憺たる試合内容には多くの国民が落胆していただけに、本戦での健闘に誰もが魅了された。そんな興奮のなか、日本代表チームの奮闘をレポートする報道の中に気になるセリフがあった。「本田をワントップに起用した“奇策”が成功した。」あれは奇策だったのか? “奇策”を辞書で引くと「普通の人には思いつかない奇抜な策略」とある。報道者がフツウの人だったのならば仕方がない。しかし、私はフツウの報道に興味はない。報道には深い洞察がほしいのだ。さて、岡田監督に聞いたらなんと答えるのか? 「奇策ではなく、当初から考えていた戦略の一つです。ただし、その戦略を採用する可能性は非常に低いものでした。」というのが本音ではないかと思う。岡田監督の発言を聞く限り、彼は相当の戦略家と思われるので、もしかしたらニヤッと笑って「奇策です」とはぐらかすかもしれない。いずれにしても、フツウの人には“奇策”と思われる戦略であっても、勝負の世界で鎬を削ってきた岡田監督にとっては、個々の選手の技術、能力、精神力、経験、性格、夢に至るまであらゆる材料を集約したうえで、「W杯でベスト4」という目標を実現するために始めから考えていた数ある戦略の中の一つであったのではないかと私は思う。

3月、バンクーバーの氷上で浅田真央は銀メダルに涙した。真央が銀メダルに終わった要因に、選曲ミスをあげる声が多かった。たしかにラフマニノフの「鐘」という曲での演技は、007モデルをバックに躍動するキムヨナの鮮烈な印象を上回るには難しいものがあった。ではその選曲・戦略は間違っていたのか? 私はそうは思わない。真央のコーチであるタラソフはこの曲を選定した際に、真央に「乗り越える」というテーマを与えたという。私の勝手な想像だが、タラソフの目標は単にバンクーバーで金メダルをとるのではなく、真央を金メダルを取り続けられるスケーターに鍛え上げ、より完成度の高いアーティストに育成することだったのではないだろうか。そのためにはどうしても乗り越えなければならない演技を身に着ける必要があり、それを実現するための曲が鐘という戦略であったのだと思う。銀メダルを胸にした真央は「この銀メダルはソチに向けてのステップ」と言った。バンクーバーをステップと捉えた真央とタラソフの戦略が花開くかどうか? 今後が大いに楽しみである。

2年前の北京オリンピックで、女子ソフトボール日本チームが悲願の金メダルを獲得した。「日本のエース上野由岐子の熱投」といえば誰もが思い出すあの決勝戦の中でも緻密な戦略が実行されていた。対戦相手は4連覇を目指す強敵アメリカチーム。鉄腕上野がいくら米国打線をゼロ点に抑えても、日本が勝つためには点を取らなければならない。それには絶対的な米国のエース・オスターマンを打ち崩さなければならないのだ。彼女からヒットを続けることは至難の業である。日本の打線の中心は主将の山田恵理、彼女は女イチローと呼ばれていた。彼女の武器は俊足と、フォームが崩れても三振しない勝負強さである。その山田が4回にオスターマンからホームランを打ちアメリカチームを突き放す。結果的にこれが決勝点となった。山田は第1打席で見逃しの三振に倒れている。実はこの打席で山田は一度もスイングをしていない。普段は三振をしない山田がなぜそのような戦略をとったのか。「これまでオスターマン投手には抑えられてきたのでずっと対策を練ってきました。オスターマン投手を打つにはライズボールかドロップのどちらかに狙いを絞らないとまず無理です。1打席目に1球も振らなかつたのは駆け引きで、どんなボールが来るのかを見極めていました。ピッチングフォームの分析ではなく、どんな感じで攻めてくるのか配球を見たいという思いがありました。2打席目の初球のドロップを空振りしたんですけど、2球目はほぼ100%の確率でライズボールがくると思ってそれだけを狙っていました。」はたしてこれを奇策というだろうか? 私は入念に練られた堂々たる戦略だと思う。

さて、今日は早慶バドミントン定期戦だ。男子は平成3年以降19連敗中、女子は平成13年以降9連敗中である。早稲田に勝つための奇策はない。入念に練られた戦略をただコツコツと毎年毎年繰り返していただくだけである。そしていつか「あっ!」という早稲田の諸君の顔を見ることになる。その布石を打つこと。それが、「打倒 早稲田」という夢を実現するための慶應の戦略である。

# KEIO WASEDA

「歴史と伝統」!! 手作りの店  
部員会に! 其の他のパーティーに!

## 山 食

慶應義塾三田キャンパス内  
TEL 03(3453)5971

早稲田大学 教育学部 昭和63年卒

## 宇野 智

早慶戦の鮮烈な思い出は、記念会堂での4年生最後の試合です。10連覇がかかるこの戦い、春季リーグは勝利しているものの、総力戦となる早慶戦では大接戦が予想されました。ひとつひとつ勝敗を予想していくと、私のシングル次第という結果でした。「富士山、9月に大噴火!」という週刊誌の記事を見て、「噴火して中止にならないかなあ」と不遜なことを思って迎えた当日。下級生のシングルス5戦、ダブルス5戦が終わって勝敗は、ほぼ予想通り。そして上級生のシングルスが一斉に始まると、周りのコートは次々と終わり、残ったのは一番奥の私だけ。しかも7-7という、とてつもなく緊迫した状況でした。会場中の人達が集まって大声援を送る異常な熱気を感じながらも、意外と冷静で「真っ赤なマグマの上を、慎重に綱渡りをしている自分」が頭に浮かびました。なんでマグマなのか、なんで綱渡りだったのかは不明です。そして試合は有利に進み、「勢いだけは絶対に渡さん!」と思いながらの勝利の瞬間、気が付くとしゃがみ込みながらガッツポーズをしていました。このシーンは、今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。

菊池会長から「お前の試合は怖くて見てられなくて、教員室にひっこんでたよ。」と言われて恐縮したのを思い出しつつ、OBとなって最初の記念会堂での早慶戦。向かいのデニーズでの昼食に出てきたのは、キンキンに冷えた、泡立つ黄金色の飲み物でした。「えーっ!という事は、あの試合の時も、ほろ酔い気分だったって事!」その時の衝撃は、忘れることはないでしょう。今となっては至極当然のことですが。

現役学生諸君、早稲田と慶応、それぞれのプライドを持って、全力で試合に臨んでください。20年以上過ぎても、昨日のこのように思い出することができる貴重な体験が待っているはずです。

WASEDA

早慶戦  
に  
寄せて

KEIO

早稲田大学 教育学部 平成22年卒

## 丁塚 真紀

『第58回早慶バドミントン定期戦』の開催、誠におめでとうございます。今年もまた、両校による熱い戦いが繰り広げられると思うと、とても胸が高まります。昨年度の早慶戦から約1年経った今、「あの独特の雰囲気は何だったのだろうか」と考えてみました。考えめぐるうちに、こんな答えにたどり着きました。

『各年の現役生が、目の前にある1度の早慶戦に熱くなるから。』

「伝統・歴史がある」と言われても、その重さを理解できずにいた1年生の頃でさえ、しっかりとあの独特の雰囲気を感じていたことを思い出します。それはおそらく、バドミントンはもちろん、挨拶、校歌、応援、アップ、早慶戦に関わる全てのことにおいて、「打倒慶應」を強く意識する先輩方の姿を見ていたからです。すると昨年、私が4回目の早慶戦を迎えるときには、知らず知らずのうちに先輩方の熱い思いをしっかりと受け継いでいたことに、今改めて気づきます。目の前にある1度の早慶戦に夢中になるうちに、いつの間にか受け継いでいた意志。これが伝統というものなのでしょう。

全てにおいて負けまいと、あんなにも熱くなれる相手は慶應以外にいません。だからこそ私たちは、他校間とはなり得ない、「よきライバル」「よき友」なのです。今決戦においても、現役生諸君がきっと、あの何とも言えない緊迫した雰囲気を作り出してくれることなのでしょう。楽しみにしています。

さて、早稲田現役生の皆さん。そんな良きライバルとの戦いでは、是非とも全ての力を出し切ってください。特に、最上級生にとって、後輩と共に戦うのは、今大会が最後です。コート内で示すのも、直ぐ後ろから後輩を応援できるのも、全てがラストチャンスです。また、後輩たちは先輩たちの熱い志をしっかりと受け継いで欲しいと思います。頑張れ!!早稲田!!

最後になりましたが、この定期戦を開催、運営するにあたり、大変なご苦勞をなされた両校の準備委員を始め、大会関係者の方々に、深く感謝を申し上げます。

慶應義塾大学 経済学部 昭和35年卒

## 今井道子 (旧姓 藤井)

この度は、第58回早慶バドミントン定期戦の開催、おめでとうございます。今年は例年になく猛暑続きの夏で、現役部員の方々は、秋のリーグ戦や早慶戦の為に夏のトレーニング、合宿等、大変な思いで練習されたことと思います。現役女子部員からの御依頼により、久々に机に向いペンを取っています。もう半世紀以上前に経験した日吉グラウンドでの合宿前のトレーニングで、男子部員の掛け声と共に「娘谷」を駆け上った事や、400mのトラックを何周も走った事、夏の合宿は、高校時代は大学と合同で郡山へ、大学では松本(浅間温泉)へ行き、松本深志高校の体育館を借りての猛練習。夕方、体育館から合宿所の旅館迄、田舎道でお喋りをしたり、歌を歌ったり(当時流行っていたポール・アンカの「ダイアナ」等々)時には疲れて喋る元気もなく無言で足を引きずりながら旅館へたどりついた事もありました。今思えば、かなり質素な食事でしたが、全員で大きな食卓を囲んでの夕食は、楽しく懐かしい思い出として甦ってきます。

私は、昭和28年(1953年)慶応女子高校に入学し、バドミントン部に入部しました。当時は日吉記念館や、三田の女子高にも体育館は無かった為、練習は天現寺にある幼稚舎の体育館や、横浜に近い神奈川体育館を借りて練習しました。女子部員は、大学3年に3名(片石(佐藤)、故上杉(高橋)、牧(藤林)さん)、大学1年4名(故土田(岡本)、大澤(成瀬)、西山(平岡)、今井(藤井))でした。春秋のリーグ戦、インカレ等は、2ダブルス3シングルの為、3年生の牧さんと組ませて戴きましたが、先輩方がとても強かったので、リーグ戦(1部)優勝(当時は女子は2部まで)、又高松でのインカレでは団体で2位になり、個人戦ではすぐに負けてしまう私でしたが、先輩方のお蔭でとても誇らしい体験をさせて戴きました。その先輩方が卒業され、私たちが3年、2年には水谷(中村)、故長堀(隅田)、1年は女子高から5~6名入部されました。その頃、米国(ノースカロライナ州)への留学の話があり、滅多にないチャンスと両親も勧めてくれましたので、大学3年の夏にアメリカへ渡り、2年後の夏の終りに、卒業して帰国しました。従って、私自身は早慶戦出場の実験はありません。大学3年の渡米前に参加した関東学生選手権では大澤さんとダブルスを組み、奇跡的(?)に準決勝で勝ち、準優勝した忘れがたい思い出があります。この時のダブルスの相手は、それぞれがシングルスを戦ったら完全に負けてしまう相手でした。

慶応女子高校入学時から5年あまりの部活動でしたが、私にとっては他では決して経験の出来ない厳しくも楽しい青春の一コマとして、歳を重ねる毎に増々大切な思い出となる事でしょう。

両校の選手の皆様、今日は日ごろの練習の成果を思う存分発揮して下さい。最後になりましたが、今迄お世話になりました諸先輩、後輩の方々に心から感謝しながら、ペンを置かせて戴きます。

KEIO

慶早戦  
に  
寄せて

WASEDA

慶應義塾大学 法学部法律学科 昭和57年卒

## 中村時広

歴史と伝統を受け継ぐ慶早戦の開催、おめでとうございます。

早いもので大学を卒業してから、30年近くも年月が流れました。現在は東京を離れて故郷である「坂の上の雲」のまち、松山市の市長として仕事をしておりますが、この年になって塾、そして体育会バドミントン部OBの価値を改めて実感しています。松山市にも三田会、稲門会がそれぞれ存在しており、交流を通じて大きな力を与えて頂いているからにはほかありません。その力を結集し、昨年は野球の慶早戦、今年は東京六大学野球オールスターゲームを松山市の「坊ちゃんスタジアム」に誘致することができました。球場で高らかに鳴り響いた「若き血」、「紺碧の空」に皆が胸を躍らせ、青春時代に帰らせてもらいました。現役時代のクラブ活動は青春の1コマに過ぎないのかもしれませんが、そこで刻まれた汗と努力と絆は、長い人生の中でかけがえのない財産になってゆくものです。

久遠の歴史の中で見れば、人間の一生などというものは瞬きするほどの瞬間的な出来ごとです。有限であればこそ、どう生きたか、どう生きるかが人それぞれにとって大切な命題となります。そんな中で熱中できること、とことん追求できることに出会った人の人生は充実したものになってゆきます。体育会のクラブ活動はまさにそれを体現する場、ましてや永遠のライバルであり、永遠の友でもある慶早両校の勝負というものは、種目を問わず特別な一時です。

「そんなことでライバルに勝てるのか!」、時代が変われども、誰かが発するその一言でクラブ全体に緊張感が走り、全部員の身が引き締まってゆくものです。選ばれし選手の皆さんは、この日のために乗り越えてきた厳しい練習に思いを馳せ、全力を出し切ることに最大の目標を置き、ベストを尽くして下さい。応援する皆さんも選手と一体になり、声を枯らさんばかりのエールを送ることで共に戦って下さい。この一日は、1つ1つのシャトルの軌跡と共に、君たちにとって生涯忘れえぬ思い出として心に刻まれるはずですから。

残念ながら当日の出席は叶いませんが、遠く四国の地より両校の健闘を心より祈っています。

慶應義塾大学 環境情報学部 平成20年卒

## 中村 翔一

第58回早慶バドミントン定期戦開催おめでとうございます。

私が現役時代に経験した4回の早慶戦はとても印象的なものです。必死になってシャトルを追いかけた。我武者羅にポイントを取りにいった。負けて涙したこともある。勝って涙したこともある。先輩の戦う姿を眼に焼き付けた。後輩の勝利を共に喜んだ。同期の意地に鳥肌がたった。リーグ戦とは違った、早慶戦ならではの独特の雰囲気や緊張感、におい、音。どうして、こんなにも空気が違うのだろう。会場の空気はいろんな人の「思い」で溢れている。早慶両校の現役、OB OG、関係者がみな必死で勝利を掴もうという「思い」が交錯している。

私が現役を引退した時の1年生がいまや最上級生としてチームを引っ張っている。まだまだ、頼りなかった当時の1年生が最上級生となってどのような成長を遂げたのか楽しみである。君たちの4年間の成果を存分に最後の晴れ舞台上で咲かせて欲しい。また、3年生以下の下級生にとっては新しいチームへの門出の試合になることは間違いありません。先輩から多くを学び、残りの体育会生活に活かして欲しい。多くの感動を与え与えられ、多くの財産を共に築きあげてもらいたい。そして、この永遠に続くであろう伝統を引き継いでもらいたいと思います。

大会にあたって、現役生の諸君にエールを送りたい。コートに立つ「選手」、応援する「選手」、サポートする「選手」。現役生全員が「選手」として熱い熱い熱い思いをもって、本気で大会に臨んでくれ！！一瞬一瞬が二度とない時間、君達の「選手」の背中には多くの人の「思い」が注がれていることを肌で感じてもらいたい。最高の真剣勝負を繰り広げてもらいたいと思います。頑張れ！チーム慶應！！最後になりましたが、今大会を開催するにあたって、ご協力運営いただいた、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



**Space of Five** は、21世紀を担うこともたちの教育・学習環境を継承していきます。

慶早戦おめでとうございます。

長い歴史と伝統を継承してきた慶早戦。同じように日本の子供の教育・学習環境は長い歴史と伝統を継承してきました。慶早戦という空間を共有することと同様、私たちはその継承を大切にします。

## 新プロジェクト始動！

参加学生  
募集中！

慶早生が継承してきた教育・学習環境のモデルハウスを荻窪に建設します。慶應義塾と早稲田の学生が参加し、学生自身の経験に基づき、かつ新しいコンセプトの住空間を作ります。一緒に作ってみませんか？是非参加してみてください。

問い合わせは、ウェブサイトのフォームより。▲

スペース・オブ・ファイブ株式会社 代表取締役 四十万 靖

  
Space of Five

スペース・オブ・ファイブ株式会社

企業サイト  
Space Design Lab.

<http://www.spaceof5.com/>  
<http://sd-lab.jp/>

早稲田大学 スポーツ科学部 平成22年卒（前年度主将）

## 松浦 翔

伝統ある早慶バドミントン定期戦が、今年もまた無事例年通り開催されることを心より嬉しく思います。今年で58回目の開催になり、本大会をはじめこれまで運営に携わって頂いた関係者の方々には御礼を申し上げます。早いもので昨年の早慶戦から一年が経ちました。当時の後輩たちが先輩として今のチームを率いている姿を想像すると非常に頼もしく感じられます。両校ともに4年生を中心に一致団結し、早慶戦にふさわしい白熱した試合を見せてくれることを期待しています。

私は、早慶戦に4度選手として出場させていただきました。中でも昨年の早慶戦は主将として最後の団体戦であり、何としても伝統ある早慶戦を大成功に導きたいという一心で試合に臨みました。そんな中、パートナーの羽石君と組んで戦ったダブルスでは4年間の想いを全て出し切ることができました。また、慶応の渋谷君と戦った主将戦は両校の仲間の応援もあり、早慶戦らしい緊張感のある白熱した空気の中、互いに全力で戦うことができました。そのいずれも好ゲームで、一年たった今でも、そしてこれからも忘れることはないでしょう。4年間の集大成として臨んだ最後の早慶戦で最高のプレーができたことを誇りに思いますし、応援してくれた仲間たち、互いに全力を尽くした慶応の諸君には感謝しています。早慶戦は伝統ある両校の意地と意地とのぶつかり合い、一人一人が決して負けることの許されない緊迫した状況で戦う、リーグやインカレとは違った独特の雰囲気、盛り上がりのある団体戦だと私は思います。その中で時には良きライバル、時には良き友、良き理解者となれるよう、早慶戦を通して、両校互いに良き関係を築いてくれればと思います。

また、早慶戦は現役生諸君にとって一つの区切りであり、スタートでもあると思います。先輩方は今まで努力してきた集大成として先頭に立ち、その姿勢や行動でチームを引っ張ってくれることでしょう。そして、彼らの背中を見て後輩達が成長してくれると信じています。早慶戦は現役諸君の積極的に働きかけ行動することでより良くなっていくと思います。そのため現役諸君には自分たちの手で、野球やラグビーに負けないくらい活気のある早慶戦を作り上げてほしいと思います。必ずや今後の人生や生き方につながる素晴らしい経験ができることでしょう。期待しています。

最後になりましたが、今大会を運営にご尽力くださいました方々に感謝し、早慶両校の更なる飛躍につながる大会になるよう御健闘をお祈り申し上げます。両校の皆さん頑張ってください。



オールカラー

# スポーツマッサージュ

運動・フィットネス・リハビリテーションのケア

大谷素明 監修

4410円

西村書店

102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6  
TEL 03-3239-7671 FAX 03-3239-7622 (価格に税別)

創設90周年企画

刊行にあたって

昨今のスポーツの普及を考えると、スポーツ科学・医学を本格的かつ包括的に扱った本シリーズの登場は待望されていたものであり、最強のリアレンスブックであると確信している。

シリーズ代表 福林 徹 (早稲田大学スポーツ科学部教授)  
監訳者 宮永 豊 (筑波大学名誉教授)  
監訳者 渡邊好博 (山形大学名誉教授)

高校・大学等の教育機関・公共図書館に必備

1 スポーツ整形外科学  
理論と実践  
監訳者 福林 徹  
定価 18900円

2 スポーツ運動科学  
理論と実践  
監訳者 福林 徹  
定価 18900円

3 スポーツ医学  
プライマリケア  
理論と実践  
監訳者 福林 徹  
定価 14700円

最強のスポーツ科学・医学書!

## スポーツ医学のバイブル!

# スポーツ科学・医学 大事典

日本初のスポーツ医学を包括的・体系的に集めた事典

セット定価 52500円

編 吉野 隆  
編者 吉野 隆

全3巻



慶應義塾大学 商学部 平成22年卒 (前年度主将)

## 渋谷 康太

今年もまた伝統ある慶早定期戦が無事開催され、大変うれしく思っております。毎年準備委員を始め、様々な方の努力や支えのおかげでこの定期戦は続いてきました。まずは御礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

さて、多くの方々が感じられてきたことかもしれませんが、この舞台には公式戦とはまた違った緊張感、雰囲気があるように感じます。私自身幸運なことに、4回慶早定期戦に出場させていただきましたが、何回同じコートに立っても気持ちの高揚を抑えることはできず、年次が上がるにつれてそれは高まっていく一方でした。暴露してしまうと、私はもともと滅法勝負事に向かない性格だと自覚しており、自分を奮い立たせるのが下手くそで、それが最大の欠点であるとも感じています。しかし、この定期戦は私の奥底に眠る闘争心を呼び覚ましてくれるのです。

「この舞台で早稲田を驚かせてやろう!」

「慶應バドミントン部の歴史に名前を刻んでやろう!」

「そっぽを向いていた人たちを振り向かせてやろう!」

いろいろな想いがごちゃごちゃに交錯しながらも、心に熱いものを秘めながら試合に臨んでいたことが思い返されます。

しかし早稲田の実力はやはり伊達ではなく、最後の最後まで苦杯を喫することとなりました。私が引退してから1年経った今は、もはや早稲田へのリベンジは叶いません。勝負にあれだけ心を熱くすることも、もしかしたら今後無いかもしれません。だからこそ慶早戦は最高だったと、この文章を書きながら今更ながら思うのです。

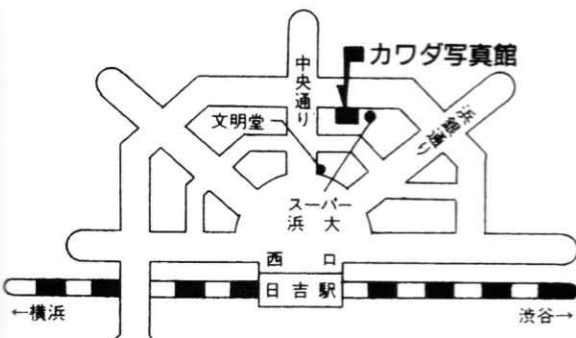
慶應、早稲田両校の現役諸君!

私が望むのは慶應の勝利!と言いたいところですが、それ以上に、お互いが日頃の努力の成果を存分に発揮するとともに、スポーツマンシップに則った学生らしい爽やかな真剣勝負を期待しています。慶早戦にはそれぞれのドラマがあります。本日は全員が自分たちのドラマを自分たちで作り上げてほしいと思います。それでは最後になりましたが、第58回慶早バドミントン定期戦の成功と、慶早両校のご健闘を心よりお祈り申し上げます。



- 卒業記念写真
- 出張記念写真

- 各種証明写真
- 就職用写真



## カワダ写真館

〒223 横浜市港北区日吉本町 1-2-7

Tel 045(562)3668(スタジオ)

045(562)3667(自宅)

営業時間 午前10時～午後6時

今年も早慶戦という伝統の戦いを迎えられることに、大変誇りを感じております。まず、今定期戦を開催するにあたり、OB、OGの皆様、準備委員、そして我々を支えて下さった全ての方々に深く御礼申し上げます。

早慶戦という舞台は私達にとって、非常に大きな存在であり続けてきました。多くの先輩の最後の勇姿を1年生の頃から見続けてきました。特に最後の主将戦は私達の心に深く刻まれています。気持ちのこもった先輩方のプレーは今でも忘れることができません。そして今年、自分がそのような舞台に主将という立場で臨めることに大きな喜びと責任を感じています。

私達チーム一同は、「全員でやる」をスローガンにし、「日本一」を目標に掲げ、個々が高い意識で日々練習を積み重ねてきました。その成果を伝統ある早慶戦にていかんなく発揮し勝利を収め、それぞれがさらなる目標へと進んでもらいたいと思っております。また私達は、団体戦で真の実力を発揮します。今年も、早稲田の勢いに是非ともご注目ください。

慶応学生の諸君、お互いに日頃の練習の成果を十分に発揮し、正々堂々と伝統の一戦にふさわしい最高の試合をしようではないか。

最後になりましたが、常日頃から応援激励してくださっているOB、OGの皆様には厚く御礼を申し上げ主将の抱負とさせていただきます。

## WASEDA VS KEIO

炭火香房 楽丸

座 敷 全80席  
テーブル席 60席

得 宴会コース

飲み放題+料理5品 ￥2500

20:30以降 飲み放題+料理3品 ￥2000

高田馬場駅前名店ビル4F

TEL 03-3209-5768

「5部降格」男子チームにとって春リーグ入替え戦後に待っていたのは歓喜ではなく、挫折であった。3部復帰を目標に掲げ、春の練習に取り組んではいたが「チームとしてのまとまり、機能」、「明確な方向性」が明らかに欠けていると言わざるをえない状況がそこにはあった。我々はリーグ後、ミーティングを行い、これらの原因を徹底的に追究した。「秋に春と同じ過ちを繰り返さないため」、「慶應バドミントン部というチームとして一丸になりやっていくため」我々は他人に甘えることなく、各々が自らの役割を果たしつつチームや他人のことを考えていくことに取り組んでいった。その中でも幾つかの壁はあったが、それを少しずつ乗り越えて今まさに慶應バドミントン部という「ただ個人がバドミントンを強くなるだけでなく、1人1人が協力してお互いを高めあうチーム」を築こうとしている。確かに個々の能力は微少なものに過ぎないが、それが集まって相乗効果を発揮すればいつの日か、早稲田打倒の根源ともなると私は信じてやまない。

一方で、女子チームにとっても今は大きな変革期である。昨年より男子チームとは別の独自の練習に取り組み始めた女子チーム。それは「より強くなって試合に勝ちたい」という想いの表れであった。しかし、変革には様々な軋轢が常に伴う。女子チームも例外に漏れず、様々な壁があった。男子チームとの、女子のレベル別チーム間での一体感の欠如。しかし我々はこれらを乗り越えようと話し合いを行ってきた。何故なら慶應バドミントン部とは男子バドミントン部、女子バドミントン部ではなく慶應バドミントン部という一体となった存在であるからだ。

早稲田の諸君、我々はこのチーム力を持って戦うとここに宣言しよう。確かにリーグ戦の結果などを見れば両校の差は大きいかもしれない。しかし今日は違う。このチームが一体となって発揮する力は必ずや早稲田に勝る力を持っていると私は確信する。

## KEIO VS WASEDA

祝 早慶バドミントン定期戦

財務・資金繰りのことなら

# 宮地会計へ

税理士・経営士・産業能率大学教授

宮地 昌之 (昭和56年慶大経済卒)

〒245-0002 横浜市泉区弥生台 29-1-301 TEL045-812-1842

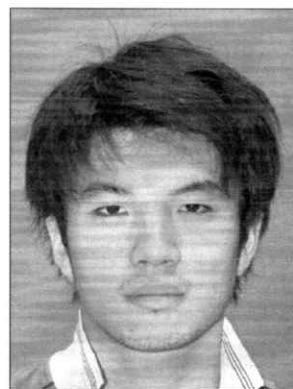
e-mail [masayuki56@cam.hi-ho.ne.jp](mailto:masayuki56@cam.hi-ho.ne.jp)

H.P. <http://www.e-adviser.jp/miyachiao>

# WASEDA



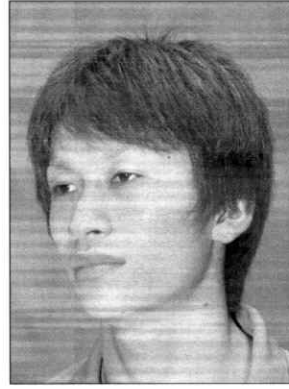
**主将**  
上田 拓馬  
スポ科4  
埼玉栄 (埼玉)  
世界イケメンランキングで  
中国代表エスカルゴ雄一  
につぐ第2位の彼。そんな  
彼は優勝を目指し日々チ  
ャンピオンのマネをするが、  
その時の口元は気持ち悪  
いといしか言いようがない。



**副将**  
佐々木 啓  
スポ科4  
埼玉栄 (埼玉)  
自称バドミントン界のキム  
ラタキヤ。入学してから膨  
らみ続けているお腹の風  
船は松本練で少しはしほ  
んだが未だに妊婦と間違  
えられてしまう。そんな彼の  
モットーは『The 部室荒らし』



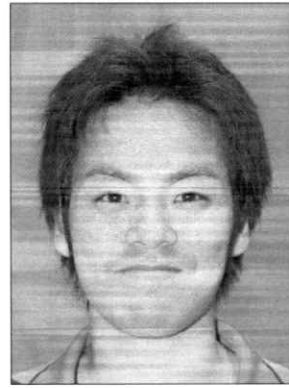
副将  
笹木 里司  
スポ科 4  
勝山 (福井)  
アルティメット職人の彼は未だに部員の名前を覚えていないのか呼ぶのが恥ずかしいのかわからないが、「おい、なー」という単語しか発ささない。そんな彼の座右の銘は『白子 feat サ・ダ・ゴ・ロ・ー』



西澤 潤  
人科 4  
延暦寺比叡山 (滋賀)  
お寺の住職になりたかったが実家がキリスト教だということに最近気づいた彼。自慢の肉体美を見せたいのか、酔うと野球拳をやりだすところは、まさに実写版小便小僧だ！



山田 雄一  
教育 4  
関東第一 (東京)  
就職がきまりさらに鼻の下が伸びている山ウー。ガットが切れた時に発せられる「パオーン」という鳴き声はまさにダックスフントである。今年の流行語大賞は『シユウチュウリヨク〜』



主務  
西本 卓矢  
スポ科 4  
伊丹北 (兵庫)  
最近ハマっている食べるラー油のせいかよりいっそう汗が止まらなくなった明石海峡大橋の異名を持つ彼。唯一の不安はこの先40年間同僚としてカルパッチョ雄一と働いていけるかである。(笑)



女子主将  
木村 唯菜  
スポ科 4  
金沢向陽 (石川)  
お笑いが大好きな彼女はボケの専門である。しかし得意なメーリスボケが部内でまったく通用していないことに気付かない彼女は寒い。(笑)



伊藤 小菜美  
教育 4  
聖ウルスラ学院英智 (宮城)  
最近、アントニオ伊藤という芸名で親しまれている彼女。喋ることはまったく面白くないが、得意の顔芸で笑いを取り、ブレイクしつつある。



堀川 実穂  
教育 4  
関東第一 (東京)  
バドミントン界の吉永小百合と慕われ、しっかり者の彼女だが、実は自分に甘いところがあり家では自炊が出来ずにハーゲンダッツにはまっている。



嘉村 健士  
スポ科 3  
八代東 (熊本)  
年々体積が増している彼。バドミントンの技術も増している。機械に投資する額も増している。女を落とすテクニックも増している。キープの数も増している…♪



副務  
及川 拓人  
スポ科3  
水沢 (岩手)  
東京～岩手までチャリンコで帰ろうとしたが茨城で泣きながらのリタイア。その苦い経験から今年もリベンジを果たそうと毎日トレセンでパワーマックスをこいでいるとの噂が…。信じるか信じないかはあなた次第♪



桜井 みどり  
スポ科3  
金沢向陽 (石川)  
バドミントンだけではなく何事に対してもガッツキを発揮する石川のギャル曾根。岩手の源さんにとめられていたパチンコだったが、我慢出来ずに両手で銭湯のゲーム機で遊んでしまったらしいー



藤田 理恵子  
スポ科3  
岡崎城西 (愛知)  
中学・高校時代と愛知でブイブイ言わせてきた彼女。その勢いはおさまることがなく大学でもブイブイ言わせてる。そんな彼女の合言葉は「ブイ・ブイ・オー」



西山 夕美子  
スポ科3  
青森山田 (青森)  
バカな発言や爆弾発言で何かと注目を浴びる21世紀のワンダーガール。彼女の行動は未だに謎が多いままで誰一人と相手をしてくれない…



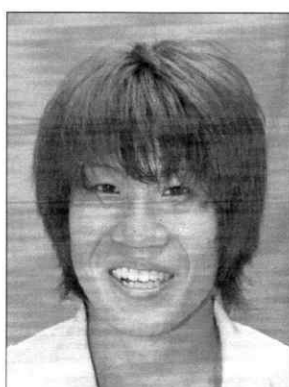
片山 佳菜  
スポ科3  
高岡西 (富山)  
彼女を表すにはこの一言で十分だ!!頭の悪いバカ!



山田 早織  
スポ科3  
愛知淑徳 (愛知)  
ヨガを始めダイエットに成功した山さ～。最近、車の免許を取ったが、いざ運転をしてみるとアクセルとブレーキがわかんなくなっちゃうの～。も～右往サオ～♪



村上 俊  
スポ科2  
延暦寺比叡山 (滋賀)  
1990年6月15日生まれ、滋賀県出身。A型のシャイボーイ。身長182cm・体重70kg。好きなアーティスト・ドリカム。好きな食べ物・肉じゃが。嫌いな食べ物・じゃがいも。



原田 和憲  
社学2  
自由ヶ丘 (福岡)  
安定したプレーでフィジカルモンスターと呼ばれる彼。一見チャラそうに見えるが実はチャライ。でも根は真面目で頑張りやさんなのだ。



岩崎 龍馬  
 社学2  
 八代東(熊本)  
 どんな人からも可愛がられる幼い彼だが、彼女ができ大人になったせいか少しノリが悪くなってしまうのである。そんなうどん好きなシラコい彼の将来の夢は、ホルモン焼きのお店をだすことである。



玉木 絵里子  
 スポ科2  
 聖ウルスラ学院英智(宮城)

ドラゴンボールで1番好きなキャラクターはセル。そんなみんなと違う価値観を持つ彼女が今年ハマったのがつけまつ毛である。



土谷 美帆  
 スポ科2  
 金沢向陽(石川)  
 視力の良い彼女は「大盛無料の看板を見付けるのが部内で1番速い。そのポテンシャルで高田馬場の大盛店はほとんどコンプリートしたらしい…



丸尾 亮太郎  
 スポ科1  
 伊勢崎清明(群馬)  
 バドミントンも勉強も真面目に取り組む彼だが、女の子を目の前にするとプチトマトに変身してしまう。そんな彼は持ち前の努力と根性でジャガ芋の座を狙っている。

## 祝 早慶定期戦

各種記念ペナント調製  
 マーク・ワッペン・旗・腕章

# オギワラ

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-8-24

早大東門前大隈通り

TEL 03 (3202) 7 8 4 6

FAX 03 (5273) 8 2 8 5



嘉村 昌俊  
 スポ科1  
 八代東(熊本)  
 兄を追って早稲田にやって来た平成のボンポコたぬき。彼ら兄弟はお互いを比べられることが大嫌いであるが、ふとした時の仕草や行動は同一人物であると思えない。彼の目標はタケ兄なのだ。



土井 悠也  
 基幹理工1  
 広島城北(広島)  
 言動や行動で入学前から噂されているけど、疑惑…部内には何人もの候補がいるらしい。次のターゲットはあなたかもしれない。



田中 開  
 基幹理工1  
 早稲田学院(東京)  
 ドイツ人の父を持つ彼。入学前から持ち前のビックマウスっぷりを発揮し何人もの先輩を怒らせた平成の巨神兵ヒトラーである。



亀田 楓  
 社学1  
 聖ウルスラ学院英智(宮城)  
 またもやウルスラからやって来た平成のアイドル。一度テンションが上がりだすと疲れて眠りにつくまで暴走し続けてしまう。誰か私を止めて〜♪



関川 容子  
 社学1  
 新潟青陵(新潟)  
 堀川さんの後を追って雪国からやって来た早稲田の期待のホープ。いやらしい声を連発している彼女はいったい何がしたいのだろう…笑



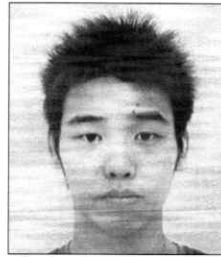
鈴木 睦海  
 文2  
 白河(福島)  
 コツコツと練習をこなし、仕事でも部員から頼りにされる存在のむっちゃん。お酒が入ると宮崎あおいに変身するらしい





コーチ・松本 徹  
Toru Matsumoto  
平成12年人間科学部卒  
延暦寺比叡山（滋賀）  
勤務・NTTコムウェア

偉大なるOBにして熱血コーチ。熱い思いで私たちが鍛えてくれています。



コーチ・藤巻 光善  
Mitsuyoshi Fujimaki  
平成17年社会科学部卒  
星陵（静岡）  
勤務・ヨネックス

今年度よりコーチに就任された粘りのシングルプレイヤー。自らコートに入り指導してもらっています。



コーチ・佐々木 彩香  
Ayaka Sasaki  
平成21年社会科学部卒  
聖ウルスラ（宮城）  
在学・神奈川大学大学院

伝説のダブルス職人。ご多忙なか早稲田の活動を見守ってくれています。

# KEIO



主将  
真栄城 優  
政 4  
多摩 (神奈川)  
独自の真栄城リズムを  
刻んだフットワークで相  
手を思うがままに翻弄す  
る。自慢の鍛え上げた筋  
肉はラーメン〇郎100%。  
真栄城イズムの集大成  
が今ここに結実する。



副将  
兵藤 博朗  
総 4  
浅野 (神奈川)  
4年目を迎えてそのプレイ  
ボーイ度は円熟の域に達  
した。練習を見守るその  
目に最近女子一同は気が  
でないご様子。リハビリ  
で溜め込んだエネルギー  
をコート内で爆発させる。



船矢 竜太  
 経 4  
 慶應義塾（神奈川）  
 今年の夏合宿で幾人も  
 の部員の髪を愛用のバ  
 リカンで切り刻んで仲  
 間を増やした。どんな  
 話も彼にかかれれば面白  
 おかしく誇張されるが、  
 バドミントンにかける  
 情熱は本物。



本田 裕士  
 経 4  
 浦和（埼玉）  
 学連に通いつめ、関東  
 のNo.2まで成り上がった。  
 今日も某日体大生仕込  
 みの○KB48の曲を聴  
 きながら仕事をこなし、  
 記念館へと急ぐ。たまに  
 持ってくるシャトルの入  
 手元は未だに謎。



植田 啓生  
 経 4  
 浅野（神奈川）  
 バドミントンに勉強に  
 恋愛に頑張る部のいじ  
 られキャラ。今日も女  
 性にスマッシュエース  
 を決める。そんな彼の  
 将来の夢は、マイノリ  
 ティーにも住みやすい  
 世界を創ること。



女子主将  
 主務  
 石川 陽菜  
 法4  
 慶應義塾女子（東京）  
 絶対的な信頼と説得力を  
 お持ちの陽菜さん。あまり  
 に完璧で部員一同頭が上  
 がらないが、モテすぎるこ  
 とが一番の悩ましい。新生  
 ステイッチ陽菜をご覧あれ！



清家 薫  
 文 4  
 松山東（愛媛）  
 とても細い体からは予  
 想もつかない、力強い  
 ショットを打つ清家さ  
 さん。そんな彼女は、誰  
 かれ構わずつつこむこ  
 とにハマっているらし  
 い。



副務  
 須賀 亮太  
 経 3  
 慶應義塾（神奈川）  
 よく私物をなくすが、  
 副務となった彼は部の  
 財布だけは決して無く  
 さない。水魔神スーガ  
 の前では相手のいかな  
 る攻撃も無力化され  
 る。



野村 和秀  
 商 3  
 土佐（高知）  
 業界用語を連発するム  
 ーノーさんは最近鉄を  
 豊富に取り入れ、ラン  
 ニングのタイムが向上  
 した。美容院では本田  
 ○佑にするぜよと言っ  
 たとか…



柳原 秀  
 理 3  
 逗子開成（神奈川）  
 ○郎愛好家第二号で、  
 本店に行けないことを  
 常に嘆いている彼のい  
 きつけは関内である。  
 後輩をいじる彼の目は  
 実にいやらしく、実に  
 楽しそうだ。



山口 哲生  
理3  
藤島 (福井)  
鉄人コールが沸き上がる彼だか実は鉄欠乏症に悩まされている。自他共に認める慶應の海老蔵。別名リーチョンウェイ。長い手足から放たれるショットは予測不可能。



竹内 裕詞  
総3  
旭丘 (愛知)  
慶應のヒーローヒロシ。最近の彼の趣味は○原いじりである。強靱な肉体を持つ彼だが、胃腸はありんこのようにか弱く、しばしば駅のトイレに駆け込んでいる。



三澤 雄大  
総3  
日本大学第三 (東京)  
バドミントンだけでなく様々なスポーツに興味を示し、サッカーW杯ではわざわざHUBで観戦したとか。彼の柔らかい手首が繰り出すラケット回しに注目。



松本 悠莉亜  
政3  
慶應義塾女子(東京)  
お嬢様のようなおっとりとした雰囲気を持つゆりあさんだが、見た目とは裏腹にこの1年間の練習によってたくさんの筋肉を身に付けた。彼女の足から目が離せない。



副務  
田中 優子  
商3  
小石川 (東京)  
優しいゆうこさんだが、それを上回る天然キャラがいじられ役へと後押ししている。ポキャ貧のため、皆に突っ込まれてしまうが、100万ドルの笑顔で華麗に受け流す。



植田 悠  
環3  
九州国際大付属(福岡)  
言うまでもないが女子チームのエース。小動物のような可愛らしい見た目とコート内でプレーする姿のギャップに心を動かされた人も多いだろう。



佐保田 恵  
環3  
多摩 (神奈川)  
小さいけれど、存在感は人一倍の佐保田さん。ストイックな姿勢は皆から尊敬の眼差しを集めている。攻撃力は床に穴をあけるほどである。レシーブするときには気をつけて!!

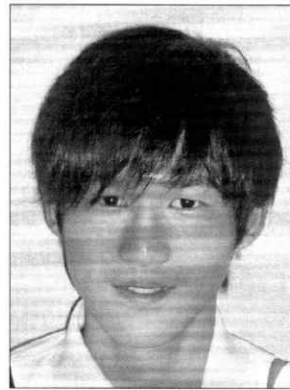


小澤 雄貴  
文2  
桐光学園 (神奈川)  
ホームベース型で安定感のある顔は誰もが認める慶應のウ○ンツ。最近では本家の人気が出火になってきたためか、焦りを覚えて人気復興への道を探しているようだ。



川口 太希  
文2  
南山（愛知）

自他共に認めるイケメンは、今では坊主3兄弟の次男となった。その爽やかな笑顔と足裏から放たれるフェロモンによって、どんな女性もイチコロである。



原 拓也  
文2

七里ガ浜（神奈川）自身の筋肉もさることながら、筋肉に関する知識ももりもりで、部員は何かあると彼に聞くほどの筋肉マスターである。そんな彼の悩みは、体脂肪が少な過ぎること。



岩橋 俊明  
商2  
帯広柏葉（北海道）  
後輩が出来て常にどこか得意気な道産子。「山に生きる」と書かれた謎のTシャツを愛用したり、メガネで知的キャラを演じたりと突っ込み所満載。別名ネット前の貴公子。



三浦 基嗣  
理2

修道（広島）慶應の〇び太くん。しかし慶應の〇び太くんは後輩の面倒見もよく、文武両道のでき男である。次期副務となった彼はラケットではなくiphone4を片手に、今日もどや顔である。



有高 李佐子  
経2  
慶應義塾湘南藤沢（神奈川）

韓国風美女有高。彼女の笑顔は羽置き中の2女に和みと怒りをもたらす。彼女の絶妙な適当さで、次期副務の仕事は必ずやスムーズに進むだろう。



高崎 友里香  
経2

慶應義塾女子（東京）少年のような心と抜群の運動神経を持つ彼女。あり余るパワフルさのため、「睡眠」という言葉の意味を知らない。そろそろ睡眠時間を確保し、身長を伸ばしてほしいものである。



村尾 麗  
経2  
慶應義塾湘南藤沢（神奈川）

お家に帰るのが苦手な村尾。ランニングを生き甲斐だと感じている。そんな彼女はもう二十歳。そろそろ前髪の色は一色にして欲しい。



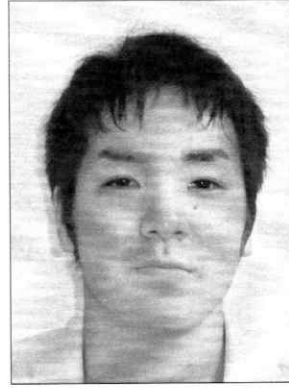
岸本 裕紀子  
商2  
普連土学園（東京）

かの有名なりアル☆ゆっこちゃん。大きくて可愛いためみんなから愛される。角がないのが長所だったが、二十歳になって怒りっぽい。

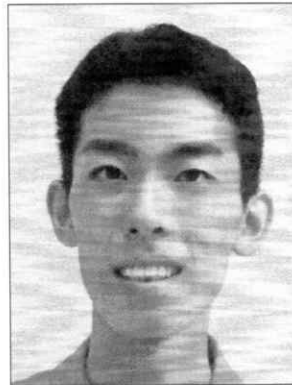


阪本 暁洋  
文1  
西武文理(埼玉)

頭の回転が早く数々のネタとトークで部を盛り上げる、ちょっと乙女チックな芸人。高い運動能力を発揮し、クネクネしたフォームで対戦相手を惑わす。



平林 桂祐  
文1  
松本深志(長野)  
途中入部ながらもその可愛らしい口調と驚異的な性格によって、驚異的な早さで部に溶け込み、バドも上達している。野球出身の彼の立つスマッシュは目を引くものがある。



榎本 諭  
経1  
サレジオ学院(神奈川)

驚異の体脂肪率5%を誇り腹筋がバキバキの非常に礼儀正しいアスリート。トレーニングに励み、3年後にはきっとウェアがはち切れていることだろう。



前川 潤  
経1  
時習館(愛知)

ジャンキー前川。シャトルを見る目がいやらしい。彼にはシャトルがどのように見えているのだろうか。彼の家の玄関マットはジープンである。



八木 勤輔  
経1  
土佐(高知)

坊主にし身を清めたチャラリーマン八木は、名実ともに一年エースとなった。のむさんの後輩で土佐をこよなく愛し、彼の標準語は土佐弁である。



大山 研一郎  
商1  
倉敷青陵(岡山)

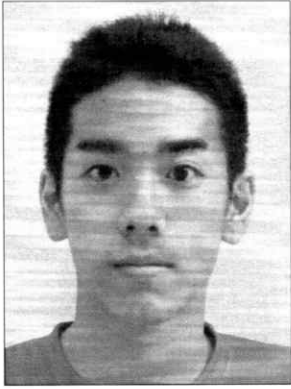
独特の話口調で相手を大山ワールドへと誘う。童顔なため大学生に見えないが眼鏡を外すと男前になる彼は、コンタクトにすることを模索中である。



梶原 章宏  
商1  
栄光学園(神奈川)  
新入生歓迎会ではOBと間違えられるなど、一年生ながら数々の伝説を持っている。一生懸命だが彼の言動にはいつも笑いが絶えない。座右の銘は「俺、集中!!」



桐生 聡之  
理1  
慶應義塾志木(埼玉)  
慶應のユ○ゲラー。得意技はサイコキネシス。その打ち方はまるで魔法使いのようである。いつかシャトルを思うがままに操ることが出来る日が来るのだろうか。



坪井 知也  
理1  
西湘（神奈川）

濃厚キャラ揃いの1年のなかで、1番ノーマルで真面目な彼。しかし家の遠さは部内指折りであり、いつも終電との格闘を繰り広げている。



井上 裕美  
看1

慶應義塾女子（東京）ビューティー裕美。きついトレーニングもさっぱりとこなす裕美が、天使の白衣を着る姿を早く見たい。未だに発見されない彼女の弱点の情報お待ちしております。



池田 真紀  
葉1

宮城第一（宮城）輝く美白と笑顔の池田。しかし喋っていることがずれているなど、行動は実におかしく予測不可能。恋愛と試合になると普段は見せない積極性を発揮するようだ。



**監督**  
五月女 季孝  
Toshitaka Saotome  
昭和60年理工学部卒  
桐朋学園(東京)出身  
野村アセットマネジメント

『鬼面仏心』歳と共に丸くなるどころか、年々学生に向かって吠える回数が増えている。時々鬼のような恐ろしい姿を表すが心はとても優しいらしい。



**ヘッド・コーチ**  
加藤 幸司  
Kouji Katoh  
昭和57年法学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
慶應義塾大学体育研究所

『臥薪嘗胆』卒業1年目にして安定した社会人生活に決別し、目標を胸にスポーツの世界に飛び込んだ。見果てぬ夢を追い求めて挑戦を続ける努力家。



**コーチ**  
加藤 正裕  
Masahiro Kato  
平成2年経済学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
三菱UFJ信託銀行

『正々堂々』邪道な手段には目もくれず武骨なまでに王道を歩む。それが彼の生き様。学生時代は主将としてチームを率い、打倒早稲田の夢を叶えた。



**コーチ**  
巽 弘樹  
Hiroki Tatsumi  
平成6年経済学部卒  
慶應義塾(神奈川)出身  
明治安田生命保険

『一心不乱』バドミントンと仕事に無我夢中。その集中力と永続性は素晴らしいが、そろそろ私生活での新パートナー獲得にも力を注いでほしい。



**コーチ**  
三壁 敏隆  
Toshitaka Mikabe  
平成14年法学部卒  
桐蔭学園(神奈川)出身  
新日本有限責任監査法人

『不撓不屈』「男は黙ってシャトルを返す」彼の背中はその物語っている。社会人としてもバドで培った不屈の精神であらゆる困難を次々と打ち破る。



**コーチ**  
手塚 純平  
Junpei Tezuka  
平成20年法学部卒  
慶應義塾(神奈川)出身  
東京海上日動火災保険

『知勇兼備』彼の考えるアイデアにはひとつ一つに知恵があり、物事を決断する際には勇気がある。緻密な考えに基づき大胆に行動する戦略家。



**コーチ**  
高橋 明子  
Akiko Takahashi  
昭和20年看護医療学部卒  
慶應義塾女子(東京)出身  
慶應義塾大学病院

『大慈大悲』人の痛みを和らげ、人を幸せにするために生まれてきたような女の子。この子を泣かせるような人はどこの誰だろうと絶対に許さない。



**コーチ**  
和栗 恵  
Megumi Waguri  
平成21年法学部卒  
慶應義塾女子(東京)出身  
江東区医師会

『多芸多才』学生時代はチームの中心選手兼マネージャーとして大車輪の活躍を見せた。様々な場面で多才な能力を発揮する、腕の立つ逸材。



**コーチ**  
森本 修介  
Shusuke Morimoto  
平成22年環境情報学部卒  
日本大学第三(東京)出身  
慶應義塾大学大学院

『外柔内剛』普段はシャイな慶應ボーイだがコートに立つと別人と化す。昨年の早慶戦では大爆発。外見は物腰穏やかだが内面は意志強固な頼れる男。